

10、農事委員會報告（次の三件を報告審議に入る）

一、土地返還反對の件 城戸龜雄 説明
土地を離れることは餓死することだ土地返還絶対反對である。
可決

二、町村會議員選舉對策の件 稻富稔人 説明
支部單位に當選可能の範圍内にて一名以上の候補者を立て農民階級解放の爲の政治闘争をなさればならぬ 可決

三、争議應援の件 天野無津次 説明
争議發生の場合は極力組合員相互に援助せよ 可決

11、閉會（引續き記念演説會開催）

六、記念演説會（午後二時三十分より一五時）

辯士 九名

稻富稔人、城戸龜雄、浮紋行、生野友愛、稻葉菊雄
西本政雄、有永外松、長野實次、天野無津次

○稻富稔人演説の要旨

農民運動を以つて小作人の横暴を非難する者があるが、農民運動は小作人が資澤する爲でなく其の生活權擁護の爲めの運動で正當な理由があるのである。

即ち日本が滿洲に於て生命線擁護の爲張學良と戦ふのだと同様である。且つ亦資本主義と闘ひ之を守る既成政黨と戦ふのも同じ理由である。

然しながら農民組合には國際主義を奉⁴³非國民的な全農系二派があるが、眞に非常時日本の難局を打開して昭和維新の斷行に處するものは吾々日農あるのみだ。